

令和5年度 熊本大学大学院社会文化科学教育部 博士前期課程文化学専攻への新コースの設置について (予告)

熊本大学大学院社会文化科学教育部では、令和5年4月に、博士前期課程文化学専攻に、新たに現代文化資源学研究コースを設置します。

なお、入学者選抜については、募集要項にて発表します。

※ この内容は計画中のものであり、変更となる場合があります。
変更となる場合は、順次ウェブサイト等で公表します。

<http://www.gsscs.kumamoto-u.ac.jp/>

2022年5月

目的

失われる前にアーカイブ化しておくべき有形・無形のさまざまな文化資源を収集・分析・整理する能力を身につけることで、新たな価値を創造し、社会に向けて発信できる人材を養成するため、大学院社会文化科学教育部(博士前期課程)文化学専攻に新たに「現代文化資源学研究コース」を設置する。

また、令和4年(2022年)10月に設置を予定している「文学部附属国際マンガ学教育研究センター」と連携し、アーカイブ化による地域文化資源の開発やこれに関わる人材の育成を本コースが担うことになる。本コース修了者は、博士後期課程へ進学し現代文化を対象とした研究に携わるのみならず、国・地方公共団体、大学等の研究機関が設置する施設における記録・アーカイブズ管理の専門家、博物館、美術館及び資料館など、現代文化資源関連の文化施設における資料管理の専門家等で活躍が期待される。

ディプロマ・ポリシー

①学位授与の要件

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究Ⅰ(4単位)及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果(以下「修士論文等」という。)の審査及び最終試験に合格すれば特別研究Ⅱ(4単位)が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

②修得すべき知識・能力

＜現代文化資源学研究コース＞

1.高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・本専攻においては、歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学、英語教育学、現代文化資源学の諸領域における、学術的知見を基盤とする高度な実践的能力とともに、文化行政、教育、マスコミ等の分野で専門的職業人として活動できる知識・技能及び応用力を修得している。また、各学術領域の研究の基礎を修め、引き続き博士後期課程において専門を深めうる研究能力を身に付けている。
- ・現代文化資源学研究コースにおいては、現代文化資源の形成・発展を推進する高度専門職業人や研究者に求められる、深い学識とともに、文献・史料の読解・分析能力、専門的な調査研究能力、新しい課題に柔軟に対応できる能力を身に付けている。

2.学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・社会・地域のニーズに応えるために、文化学の諸領域間の連携と協力による学際的な教育・研究による知識・技能を修得している。
- ・コース内の各学術領域に関する深い学識とともに、各地域の文化を分野横断的及び学際的に捉え研究できる能力を身に付けている。
- ・従来的人文社会諸学の手法に基づきつつも、それらを総合・発展させ、新たな研究分野を開拓する能力を身に付けている。

3.グローバルな視野と行動力

- ・グローバル化の進展に伴い、異文化の交流と共存という重要課題を解決し、グローバルな環境に適切に対応できる能力を持っている。
- ・日本・東アジア、欧米等の各地域の歴史・社会文化を俯瞰・比較するグローバルな視野を、身に付けている。
- ・自らの研究成果を国際的に発信しうる外国語能力を備えている。

4.地域社会を牽引するリーダー力

- ・地域の歴史・文化に関わる文化行政の専門家・学芸員、考古学専門職、地域の教育を担う学校教員等、地域社会において中核的役割を担う高度専門職業人に必要な能力を持っている。
- ・従来の文化行政の枠組みでは対象とされない領域における文化資源を新たに発掘・発見し、これらを適切に評価し、整理・保存・活用まで含めた新たな価値創造を先導する能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー

①全体の方針

本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学研究コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。

②教育課程編成の方針(「修得すべき知識・能力」への対応)

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

本専攻では、歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学、英語教育学、現代文化資源学の諸領域について専門的知識を獲得するためにカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員、高校国語教員、英語教育の各専門職コースにおいては、加えて実習、演習等の実践的なカリキュラムを、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学の各研究コースでは、文献・史料の読解・分析能力を修得するようカリキュラムを編成している。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

文化行政・学芸員専門職コースでは、文化財行政等に関する共通プログラムと専門教育プログラムを組み合わせ、高校国語教員専門職コースでは、関連科目を幅広く、英語教育専門職コースでは、言語学・教育学・心理学等の学際的領域と関わる科目を履修させている。研究コースでは、日本、東アジア、欧米の文化を分野横断的及び学際的に捉え研究できる能力を育成しており、専攻としてカリキュラムを学際的に構成している。

3. グローバルな視野と行動力

グローバルな実践能力を修得するカリキュラムを編成している。英語教育専門職コースでは、異文化理解のための教育実践能力を高める科目を提供している。日本、東アジアを含む広い視野に立脚した研究能力を修得するため、歴史学研究コースと現代文化資源学研究コースでは実習・実地調査を、日本・東アジア文化学研究コースでは、フィールドワーク等の方法論を実施する。欧米文化学研究コースでは、外国の大学等での修得単位を修了要件単位に算入している。

4. 地域社会を牽引するリーダーカ

地域のリーダーカを育成するカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員専門職コースでは、地域の文化行政を担当する能力の修得を目的として、インターンシップ等をカリキュラム化している。高校国語教員、英語教育専門職コースでは、地域の現職高校教員を対象に、実践的指導力を育成する演習科目等を提供している。歴史学研究コースでは、地域の歴史研究とともに、遺跡や古文書、地域の民俗を対象とした調査実習を行っている。現代文化資源学研究コースでは、国・地方公共団体、地元企業等と協力した文化事業への参画の機会を、実習等を通じて提供する。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

1. 講義においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明するなどして、知的好奇心と学習意欲を高める。講義を聴き、講義ノートを復習することで、知識の確実な理解・定着が可能となる。
2. 演習では主に文献の読解により分析能力を、実習では現場の経験により実践能力を高める。人文科学の知識を活用する能力、論理的思考力を涵養する。

④学修成果の評価の方針

1. カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数及びGPA等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価する。また、学位論文については、学位論文審査基準を明示し、その基準に基づき適切に評価する。
2. 学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により評価する。
3. 学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習への積極的な参加等によるが、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施する。

アドミッション・ポリシー

◆求める学生像

歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学、英語教育学、現代文化資源学の諸領域において、学術的知見を基盤として、高度かつ実践的能力を修得し、文化行政、教育、マスコミ等の分野で専門的職業人として活動できる人、及びそれぞれの学術領域の研究の基礎を修め、引き続き博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を育成することを目標とする。このような観点から、本専攻は次のような人を求める。

1. 地域の歴史や文化に根ざした文化行政・博物館学芸員のエキスパートをめざす人
2. 日本語日本文学・中国語中国文学の学術的成果を礎に、授業に広がりや深みを与える国語教員をめざす人
3. 高度な理論と実践力を兼ね備えた、現場での英語教育改善で先進的役割を担える専門職をめざす人
4. 高度の史料読解力を基盤に、歴史事象を主体的に研究するスキルを身につけることをめざす人
5. 東アジアの言語・文学・民俗について専門的にかつ広い視野に立って東アジア文化研究をめざす人
6. 英語やドイツ語やフランス語の高度な能力を培い、言語・文学・文化研究や国際交流などの専門家をめざす人
7. 現代文化についての高度な資料収集・分析能力を持ち、専門的かつ学際的な視点から現代文化資源研究をめざす人

◆入学者選抜の基本方針

- ・一般入試、社会人入試及び外国人留学生入試
筆記試験、面接、出願書類を総合して判定し、入学者を選抜する。

本件に関する問合せ先

熊本大学人社・教育系事務課

社会文化科学教育部教務担当

電話番号 : 096-342-2325

メール : jsj-daigakuin@jimu.kumamoto-u.ac.jp